

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
51	川崎市立白鳥中学校	高橋 泉

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
知・徳・体・美の調和のとれた人間形成をめざす 1 基礎基本を大切に、個性を生かす人 2 自他を大切に、責任ある行動がとれる人 3 心身を鍛え、生き生きとした生活のできる人 4 美しいもの、正しいものに感動する心をもった人	I 確かな学力を身につける教育の推進(確かな学力の育成) II 自ら考え、判断し、表現する力を育成する教育の推進(社会性の育成) III 健やかな心身を育成する健康・安全教育的の推進(健やかな心身の育成) IV 多様な出会いを大切に、共に学ぼうとする教育の推進(開かれた学校づくり)	I 確かな学力の育成 ・学習指導要領に基づく適切な学習評価の推進 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ・授業力向上研究の推進 II 社会性の育成 ・リーダーを中心とした学校作り ・美しい環境で美しい心を育てる学校作り

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
I 確かな学力の育成	<p>○教師の授業力向上を目指した授業研究の実践 ・授業研究会の実施 ・ICTを活用した授業実践の研究 ・学習規律の維持と学習環境の整備</p> <p>○授業力向上委員会を中心とした研修の実施 ・授業を超えて授業を見学意見交流するなど、職員が学び合える場を設定 ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点とした指導方法の工夫改善</p> <p>○年間指導計画に基づいた学習評価の研究 ・適切な評価につなげる学習評価の場面や方法等の工夫改善 ○個々の生徒の学習支援と学習のユニバーサル化について共通理解を図る</p>	<p>・学校評価アンケートでは「先生が授業を工夫し、わかりやすい授業を行っている」に対して87%、「授業に意欲的、積極的に取り組む」に対して84%生徒が肯定的な回答をしている。</p> <p>・外部の講師を招いての職員研修等を計画に沿って実施できた。</p> <p>・各教科において学び合いを意識した授業展開に努めた。主体的、対話的な活動から深い学びにつなげるため取組の構築をさらに図る必要がある。</p> <p>・教科主任会、校内研修、教科打ち合わせを通して、評価評定の妥当性について共通理解を図った。さらに生徒の状況を的確に把握し、学習指導要領に沿った適正な評価評定を行えるよう、適正な評価に向け各教科ごとの検討を重ねて行っていく必要がある。</p> <p>・個々の生徒の特性に応じた支援を職員の共通理解を図り、指導の工夫と支援を行った。また、理解及び基礎・基本の定着が必要な生徒へについて、学習会等を行ったが、さらなる支援の手立てが必要である。</p>	<p>・授業力向上に向けての取組を継続し、課題を明確化して教員の意識を向上を目指し研修を行う。</p> <p>・ICT活用等の有効活用を含めた研修を継続し、個々の生徒の学びにつなげる。</p> <p>・各教科ごとの打合せおよび学び合いの機会をつくり、教科目標の達成を図る。</p> <p>・授業力向上委員会を中心に教科や年代の枠をこえたOJT研修を実施する。</p> <p>・主体的な深い、対話的な学び、深い学びを視点とした授業展開の工夫を図る。</p> <p>・学習指導要領に対応した評価について、評価評定への総括方法について研修を外部講師を招いての研修や、職員間で具体的な生をかけた研修を継続する。</p> <p>・個々の生徒の状況を諸会議等を利用して的確に把握するとともに、教職員の共通理解を図る。</p> <p>・授業実践における指導と評価の一体化を図るよう、教科内、学校全体で研修、共通理解を図っていく。</p>
II 社会性の育成	<p>○生徒会を中心としたリーダーづくりの推進 ・リーダーの育成と生徒中心の行事運営の推進 ・校内リーダー研修会の実施 ・生徒会委員の定期的な実施 ○よりよい人間関係づくりから始まる落ち着いた教育環境づくりの推進 ・生徒会の委員会活動を中心とした、環境整備の推進 ・共生 * 共有プログラムを活用し、いじめのない人間関係づくりを推進する ・道徳授業の推進 ・挨拶、規範意識を身に付けた生徒の育成 ・体験的な活動を大切にキャリア在り方生き方教育の推進</p>	<p>・生徒アンケート「学校行事や委員会・部活動において積極的に取り組んでいる」に対し91%が肯定的な回答をしている。リーダーを中心とした生徒が意欲的に活動できる場を設定することができた。</p> <p>・94%が「周りの人に思いやり認め合いの気持ちを持って接している」と肯定的な回答をしており、よりよい人間関係を築こうとしている。</p> <p>・92%が「学校生活のルールを守り、マナーを意識した行動がとれている」と肯定的な回答をしており、規範意識が身につけている。</p> <p>・「将来の生き方や夢について考える授業を行っている」について81%が肯定的な回答となっているが、体験活動を中心にキャリア在り方生き方教育を学校としてさらに推進していく必要がある。</p>	<p>・生徒が主体の活動となるように、リーダー育成、行事等の企画運営、生徒へ支援を引き続き行う。</p> <p>・学級、委員会、生徒会等において生徒を中心とした企画運営の推進を図る。</p> <p>・各種行事の意義・目的を再確認し、育成したい能力を明確にしておく。</p> <p>・道徳教育、共生 * 共有、SOS出し方教育等を通して、心の教育、人権尊重教育の推進を図っていく。</p> <p>・キャリア在り方生き方教育について職員の理解を深め、組織的に推進していく。</p> <p>・日常の学校生活における生徒へとのより良い関係作りにも努める。</p>
III 健やかな心身の育成	<p>○支援教育の充実を図る ・支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の充実 ・教育相談の充実と ・SOS出し方教育や共生 * 共有プログラム等を活用した、いじめのない人間関係づくりの推進 ・支援教育推進委員会の定期的な開催 ・全職員対象の支援教育推進会議を開催し、全職員の共通理解及び情報共有を図る ○健康・安全教育的の推進 ・心肺蘇生法研修・性に関わる講演会 ・活動方針に沿った部活動の運営 ○危機管理体制の見直しと改善 ・避難訓練の見直しと改善・防犯研修</p>	<p>・生徒アンケート「学校生活が楽しく充実している」先生は生徒の悩みや相談事に対してほぼ9割の生徒が肯定的な回答をしている。しかし、否定的な回答をしている生徒も一定数おり、より学校生活が充実したものになるような学校づくり、教員の対応が必要であると捉えている。</p> <p>・支援教育推進委員会、支援教育推進会議を計画通りに開催した。</p> <p>・別室対応の支援体制を整えて行った。教員の配置は依然厳しい状況だが、継続していききたい。</p> <p>・今後も人間関係に起因する問題に対して未然防止・早期対応に組織として取り組んでいく必要がある。</p> <p>・支援教育委員会、支援教育推進会議において支援方法の検討や情報発信により適切な支援に取り組めた。個々の教員が適切な対応・支援に取り組めるような研修や共通理解が必要である。</p> <p>・保護者と連携した教育的な支援ニーズのある生徒への支援に努めた。教育的な支援ニーズのある生徒に対する支援の検証により充実した支援の推進が必要である。</p>	<p>・教育相談をはじめ、日頃から生徒の様子に「気づき」、適切な声掛けや働きかけができるよう、職員研修を行う生徒に対し、生徒・保護者との十分な話し合いを持ち、合意形成を図る。</p> <p>・スクールカウンセラー、巡回相談員等の専門職との連携を強化し個々のニーズに合った支援の充実を図る。</p> <p>・校内研修を実施し支援ニーズのある生徒へ配慮した学級指導、教科指導の在り方について理解を深めるとともに支援の充実を図る。</p>
IV 開かれた学校づくり	<p>○地域から信頼され、生徒が意欲をもって学べる学校づくりを推進する ・地域の教育力を生かした活動の充実 ・学校掲示板・ホームページの充実 ・生徒会を中心とした清掃活動、地域施設への訪問活動</p> <p>○家庭・地域と連携した教育活動の推進 ・学校オープニングの定期的な実施 ・保護者が学校行事への参加を促進するような取組 ○校内委員会を中心とした、小中連携教育の強化・推進を図る ・小中連携教育協議会の開催 ・学区内小学校との情報交換並びに合同研修会の実施 ・学区内小学校児童の部活動・授業の体験の実施</p>	<p>・学校掲示板やホームページにおいては計画通りに掲示・更新した。</p> <p>・保護者アンケートから「学校は学校だけでなく地域の様子や予定を積極的に家庭に伝えている」に対して94%が肯定的な回答をしている。</p> <p>・保護者アンケートから「学校は授業参観や保護者会など出席できる機会を多く設定している」に対して94%が肯定的な回答であった。</p> <p>・合同研修会や体験活動を計画通り実施し、小中での情報共有等を行うことができた。</p> <p>・小中連携教育の在り方について検証し効果的な支援につなげる必要がある。</p> <p>・小中連携を通して義務教育9年間を見通した児童生徒理解を今後も図っていく。</p>	<p>・学校だよりの計画的な発行、ホームページの定期的な更新、学校掲示板等をとおして地域・保護者への情報発信に努める。</p> <p>・学校、地域、家庭の三者における関わりを深めるための情報発信や生徒の意識向上に向けた取組の推進を図る。</p> <p>・より多くの保護者、地域の方に学校の様子を理解してもらえよう機会を多く設定していく。</p> <p>・小中学校における適切な支援の在り方について検証していく。</p> <p>・小中合同の職員研修の開催を通して児童生徒への継続した支援に対する共通理解を深める。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ
<p>・行事等を通して、子どもたちが様々な経験を積むことができ成長に繋がっているように感じる。</p> <p>・職業講話や職場体験など、外部の人と繋がりが自分の将来に向けて考える機会がありよかった。キャリア在り方生き方教育をさらに推進してほしい。</p> <p>・子どもたちは不安や、ストレスを抱えており、学校と家庭、地域で連携を図って見守っていく必要がある。相談しやすい生徒との信頼関係づくりが必要。</p> <p>・これからも外部の人材などを活用して、広い視野で世界と繋がれるような取組が必要。地域と繋がる機会を多くつくって欲しい。</p> <p>・周囲のことに目を配り、様々な状況の人がいることを理解し学校生活を送って欲しい。</p> <p>・社会でもコミュニケーションの取り方が難しい今、人との関係づくりのきっかけとなる挨拶を大切にす学校であってほしい。</p>	<p>多くの生徒たちは落ち着いた学校生活を送り、学習や行事においても意欲的な取り組みが見られました。8～9割の生徒がどの項目にも肯定的な回答をしています。しかしながら、表面上はわかりにくい不安を抱えている生徒やアンケートの各設問に対して低い評価で回答している生徒もいます。生徒一人一人にしっかりと目を向け、個々に対応した支援をしていかなければならないと考えます。</p> <p>次年度においては教員の指導力を高め、教科・学習指導はもとより、心の教育、支援教育、キャリア在り方生き方教育等、現在求められている教育課題に対して取組をさらに充実させていきたいと考えます。また、教員自身が生徒に対して思いやりの心を持ち、生徒との信頼関係を構築できるよう取組むと同時に、生徒主体とした諸活動を推進していきます。教育公務員としてのモラルについては、次年度以降も校内での周知徹底を図っていきます。</p>